

第59期

中間事業報告書

IRハンドブック

平成17年10月1日～平成18年3月31日

冷蔵倉庫事業

業界第2位のシェアを持つ高利益率の事業。お客様の大切な貨物を最適な温湿度帯で保管し、情報システムの強化とともに、通関、運送、付帯加工など機能の充実に努め、「物流型倉庫」としての差別化を進めています。

食品販売事業

食品の加工・卸売を行っており、販路の拡大、取扱商品の多様化、適正在庫の維持、利益率の見直しの徹底などにより、厳しい外部環境と細分化する消費者ニーズに柔軟に対応できる営業基盤の強化に努めています。

新中期経営計画

(平成17年10月～平成20年9月)

目標となる 平成20年9月期の 経営指標

- ①売上高1,100億円・
経常利益42億円の実現
- ②ROE4%台の確保
- ③配当性向40%以上の維持

管理部門

事業の変革を支え、人を育てる仕組みの再構築に努めています。人事制度、人材育成制度などの抜本的な見直しを図り、リスクマネジメント、コンプライアンスの強化など時代の要請に対応していきます。

私たちがヨコレイは、
全社一体となつて
新たな一歩を踏み出しました。

ヨコレイは1948年の創業からまもなく60年になります。この間、「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」という経営理念のもと、さまざまなステークホルダーの皆様や地域社会に支えられながら発展を遂げてまいりました。高品質で独自性の高い冷蔵倉庫事業や、おいしく、新鮮な食材をタイムリーに調達し安定的に供給する食品販売事業などを通じて、その存在価値を高めてまいりました。そして今、私たちは、ヨコレイの独自性を追求し、「オンリーワン企業」として更なる発展を目指し、当期を初年度とする3か年の新中期経営計画を策定して新たな一歩を踏み出しました。

ひとに優しく ものに優しく
People-friendly. Environment-friendly.



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
当社の第59期中間期（平成17年10月1日から平成18年3月31日まで）の
営業概況を中間事業報告書としてお届けするにあたり、日頃のご支援
に対し厚くお礼を申し上げます。

当中間連結会計期間における日本経済は、堅調な企業収益を背景とし
た設備投資の増加に加え、雇用環境にも改善がみられました。それに
伴い個人消費にも回復の兆しが見られるなど、景気は緩やかな上昇基
調を維持しております。しかし、原油・素材価格の高騰や年金問題等、
将来に対する不安は払拭されておらず、先行き不透明な状況が続いて
おります。

食品関連業界におきましては、米国産牛肉のBSEや世界的規模の鳥イ
ンフルエンザ問題等、畜産品の安全性への不安が解消せず、また水産
品では、世界的な市場の拡大から価格が上昇している一方、国内では、
消費動向は依然低調なことから、事業環境は難しい状況で推移いたし
ました。

このような環境下において、当社グループは新しい中期経営計画のも
と外部環境の変化に迅速な対応ができる機能の充実と、抜本的な組織
改革を進めてまいりました結果、増収増益を達成することができまし
た。中間配当金は、経営成績を勘案し、日頃のご支援に報いるため、
1株につき50銭増配し8円50銭とさせていただきます。今後も、顧客
重視の姿勢を基本とし、新中期経営計画に取り組むことで企業価値の
最大化を目指し積極的に事業を展開してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りたく
お願い申し上げます。



代表取締役社長

吉川 俊雄

CONTENTS

目次

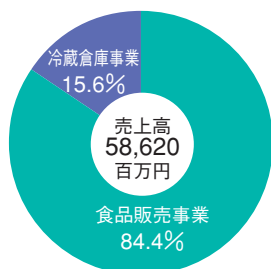
ごあいさつ	2
営業概況	3
トップが語る“ヨコレイの今”	5
中間連結財務諸表(要約)	7
特別コラム	9
会社概要／株式の状況	10

● 当中間期の概況

当中間期、当社グループは平成17年11月に発表しました新中期経営計画（3カ年）の事業方針に基づき、冷蔵倉庫、食品販売の両事業とも顧客の求める商品・サービスの提供や新たな需要の開拓など積極的な営業活動に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。

この結果、厳しい環境下でありながら、各事業は順調に推移し、増収増益とすることができました。当中間連結会計期間の売上高は58,638百万円（前年同期比24.6%増）、営業利益は2,243百万円（前年同期比9.8%増）、経常利益は2,333百万円（前年同期比8.3%増）となり、中間純利益は1,199百万円（前年同期比1.6%増）となりました。

● 事業別売上高の内訳



(注) その他事業収入18百万円を除く

〈参考〉

前中間期	事業別売上構成比
売上高	47,037百万円
(注) その他事業収入17百万円を除く	
食品販売事業	81.3%
冷蔵倉庫事業	18.7%

冷蔵倉庫事業

平成17年10月の十勝物流センター第3号倉庫（1,011トン）増設により当中間期末の国内冷蔵設備保管収容能力は、608千トンとなりました。輸入牛肉の搬入減、顧客の在庫圧縮と物流経費削減の動きも依然として続くなど厳しい事業環境のもと、新規顧客の開拓や冷蔵倉庫需要の掘り起こしなど、地域に密着した集荷活動に努めましたが、国内入庫取扱数量は前年同期を2.5%下回る1,041千トンとなりました。一方、在庫率は高水準で推移し、保管在庫量は前年同期比で12.5%と大きく増加いたしました。また、海外連結子会社でありますタイヨコレイ株式会社については、当社の指導力をより高めるべく、出資比率を80%としました。以上の結果、冷蔵倉庫事業の売上高は9,156百万円となり、営業利益は2,252百万円となりました。

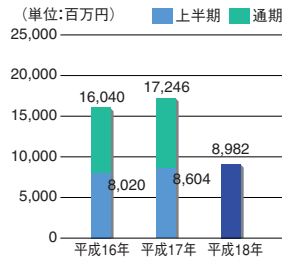
食品販売事業

全般に販売環境の厳しい中、新規顧客の獲得及び取扱品目と数量の拡大を図り、販売力の強化に努めました。水産品では海老・サバ等主力商材の取り扱いが増加いたしました。また、長引く米国産牛肉の輸入禁止による、豚肉に対する代替需要が引き続き旺盛であることから、豚肉を中心に畜産品の売上げも大きく上伸いたしました。

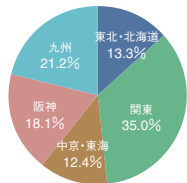
以上の結果、売上高は49,463百万円となりましたが、水産品、畜産品ともに仕入れ価格上昇の影響等もあり、営業利益は668百万円にとどまりました。



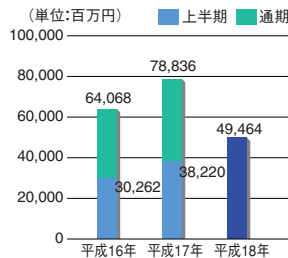
●国内売上高



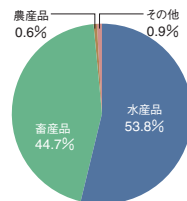
●エリア別売上構成比



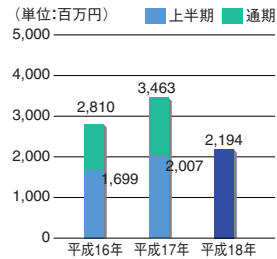
●国内売上高



●品目別売上構成比



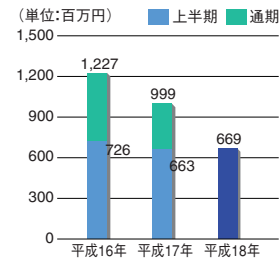
●営業利益



(参考)

前中間期 エリア別売上構成比
 東北・北海道……………13.1%
 関東……………33.1%
 中京・東海……………12.6%
 阪神……………20.6%
 九州……………20.6%

●営業利益



(参考)

前中間期 品目別売上構成比
 水産品……………59.1%
 畜産品……………39.0%
 農産品……………0.8%
 その他……………1.1%

● 通期の見通し

今後の見通しにつきましては、国内景気は着実な回復基調にあるものの、食品関連業界におきましては、消費者の低価格志向や厳しい安全性への要求、企業間の競争など依然として厳しい事業環境が続くものと予想されます。

こうした中、当社グループでは冷蔵倉庫・食品販売両事業で積極的な営業活動を通し、顧客ニーズと商機を的確にとらえた商品とサービスの提供により、一層の収益向上、企業価値の向上を目指して展開いたします。

新規設備投資につきましては、首都圏湾岸部の新しい拠点として横浜物流センター（冷蔵保管収容能力：約24,400トン）を平成19年3月の完成稼働を目指し建設中です。また、農・畜産物の主要産地に立地する都城物流センターの第2号倉庫（冷蔵保管収容能力：約14,200トン）を平成18年9月の稼働開始に向けて建設中です。さらに、平成11年稼働の加須物流センターでは、需要の拡大を受けて、新たに第二物流センター（冷蔵保管収容能力：約20,000トン）を平成19年8月の完成稼働を目指し建設する計画です。平成18年9月期の通期（連結）の業績見通しにつきましては、

売上高	110,480百万円
経常利益	3,790百万円
当期純利益	2,010百万円
1株当たり当期純利益	40円71銭

を見込んでおります。



「社員の自主性を掻き立て、新しいヨコレイを作ることが
更なる発展につながると考えています。」

代表取締役社長

吉川 俊雄

——新中期経営計画がスタートし半年が経ちました。
これまでの主な取り組みと進捗状況をお聞かせください。

新中期経営計画では、最終年度となる2008年9月期の数値目標を、売上高1,100億円、経常利益42億円として、積極的な経営に取り組んでいます。数値目標の達成はもとより、新中期経営計画の真の狙いは、抜本的な体質改善にあると言えます。外部環境やユーザーニーズの変化が激しい昨今、旧態依然としたやり方のままでは成長の加速は望めません。新たな改革として、掲げた数値目標に対して会社が具体策を講じるのではなく、社員自らがどのように達成するかを考え、責任を持って実行していく、社員の自主性を重んじた経営方針を採用しています。私は、毎週のようにどこかの事業所に出向いては、自分の目で現場を見て回りますが、社員一人ひとりの目の輝きや話し方の中にある気や意識向上が見て取れ、早くも十分な手ごたえを感じています。

また、これまでは独立採算制を採用し、事業所ごとに徹底して利益獲得を追求してきました。今後は競争相手が外にいることをより意識し、独立採算制の良い部分は残しながら、ヨコレイ全体での利益獲得に邁進していきます。

主な取り組みとしては、冷蔵倉庫事業と食品販売事業の担

当役員を中心に改革推進委員会を設置し、個々の業務内容について再分析を図っています。冷蔵倉庫事業では、貨物の入出庫や保管の他に、お客様の配送のお手伝いや、流通加工、通関業などの付帯業務が増加傾向にあります。これらの業務の拡大策を講じ、保管品質を高めることで冷蔵倉庫業の差別化を図り収益力強化に繋げていきます。食品販売事業については、水産・畜産・農産の各商材をバランスよく展開し、各事業所で取り組むだけでなく、事業所横断視点でも取り組むことにより改革スピードを加速し、安定的な成長を目指していきます。

■新中期経営計画

3つの 基本方針

1. 中長期的視点の目標を掲げ積極的にチャレンジする人・体制づくり
2. 企画機能強化による事業領域拡充
3. 事業運営の仕組みづくりによる生産性向上

3つの 経営指標

1. 売上高1,100億円・経常利益42億円の実現
2. ROE4%台の確保
3. 配当性向40%以上の維持



——前期に新設した伊勢原物流センター、 都城物流センターの稼働状況はいかがですか？

伊勢原物流センター（神奈川県）、都城物流センター（宮崎県）ともに予想を上回る稼働状況にあり、業績も順調に推移しています。

都城物流センターのある都城市は、畜産品、農産品とも日本のトップを争う生産地であるため、北海道の十勝と並び、農畜産品供給の南北を分ける大きな拠点になるのではとオープン前から大きな期待を寄せていました。期待どおり相当数の需要が生じ、地元ユーザーの方々からの強い要望もあって、現在、敷地内に第2号倉庫を増設中です。地方の保管物流施設については、まだまだ十分とはいえない地域が多く、今後とも継続的に設備投資を展開していく方針です。

首都圏、特に京浜地区港湾部については、今後さらに冷蔵倉庫需要が高まると予想し、新たに横浜物流センターの新設に着工しました。条件のよい土地を見つけるのが難しいエリアではありますが、チャンスがあれば積極的に拠点展開をしたと考えています。

——社会貢献の一環として、 環境対策にも力を入れていますね。

環境問題が深刻化する中、我々冷蔵倉庫業に何ができるかを常に考えています。昨年稼働の伊勢原物流センターに導入した「太陽光発電システム」は、太陽光を直接電気に変えるため、原油の節約、地球温暖化の要因となる二酸化炭素排出抑制に大きく貢献できます。商用電力の節約や電気料金の削減といった導入効果も期待でき、現在建設中の横浜物流センター、都城物流センター第2号倉庫をはじめ、今後新設する冷蔵倉庫にも順次導入していく予定です。

また、環境を考える上では、冷蔵倉庫での自然冷媒使用やハイブリッド車の導入、フォークリフトの全車電動化など、可能な限り環境仕様への切り替えを



横浜物流センター（24,400トン）

検討しています。こうした実践により、環境への負荷を軽減し、



都城物流センター第2号倉庫（14,200トン）

社員の意識改革にも役立てたいと考えています。

最後に、株主の皆さまに メッセージをお願いします。

当社では、株主の皆さまに対する利益還元を重要施策の一つと考え、新中期経営計画では、1株あたりの配当を20円、配当性向を40%以上で維持することを目標としています。また株主資本利益率（ROE）は4%台の確保を基本目標とし、安定して維持できる企業体質への転換を目指します。

まずは、新中期経営計画の達成を念頭に置き、企業価値の向上に向けた経営努力をしてまいります。今後の事業展開にどうぞご期待ください。



中間連結財務諸表(要約)

●中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別 第59期中間期 平成18年 3月31日現在	第58期中間期 平成17年 3月31日現在
資産の部		
流動資産	23,693	23,240
① 固定資産	45,546	41,298
有形固定資産	38,498	35,347
無形固定資産	1,792	1,555
投資その他の資産	5,255	4,394
資産合計	69,239	64,539
負債の部		
流動負債	14,604	10,075
② 固定負債	1,795	4,585
負債合計	16,400	14,660
少数株主持分		
少数株主持分	72	206
資本の部		
資本金	10,272	9,545
資本剰余金	10,316	9,589
利益剰余金	31,284	30,223
その他有価証券評価差額金	1,392	772
為替換算調整勘定	△109	△119
自己株式	△389	△339
資本合計	52,766	49,672
負債、少数株主持分及び資本合計	69,239	64,539

●中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別 第59期中間期 平成17年10月1日から 平成18年3月31日まで	第58期中間期 平成16年10月1日から 平成17年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,972	1,756
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,773	△840
財務活動によるキャッシュ・フロー	△481	△431
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	0
現金及び現金同等物の増減額	△3,275	484
現金及び現金同等物の期首残高	4,125	5,888
現金及び現金同等物の中間期末残高	850	6,373

●中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別 第59期中間期 平成17年10月1日から 平成18年3月31日まで	第58期中間期 平成16年10月1日から 平成17年3月31日まで
売上高	58,638	47,054
売上原価	53,926	42,525
売上総利益	4,712	4,529
販売費及び一般管理費	2,468	2,486
営業利益	2,243	2,042
営業外収益	114	134
営業外費用	24	21
経常利益	2,333	2,155
③ 特別利益	118	1
④ 特別損失	222	12
税金等調整前中間純利益	2,229	2,144
法人税、住民税及び事業税	872	838
法人税等調整額	144	87
少数株主利益	12	38
中間純利益	1,199	1,179

●中間連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	期別 第59期中間期 平成17年10月1日から 平成18年3月31日まで	第58期中間期 平成16年10月1日から 平成17年3月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	10,206	8,698
資本剰余金増加高	109	890
資本剰余金中間期末残高	10,316	9,589
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	30,512	29,408
利益剰余金増加高	1,199	1,179
利益剰余金減少高	427	365
利益剰余金中間期末残高	31,284	30,223



① 固定資産

横浜物流センター新設工事……………1,410百万円
 都城物流センター第2号倉庫新設工事……………698百万円
 (仮称)加須第二物流センター新設用地……………482百万円



② 固定負債

1年以内に償還予定の転換社債
 (流動負債へ振替)……………△1,590百万円
 第3回無担保転換社債の転換による減少……………△219百万円



③ 特別利益

福岡工場跡地売却益……………113百万円

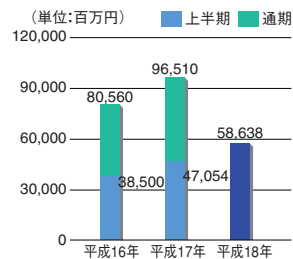


④ 特別損失

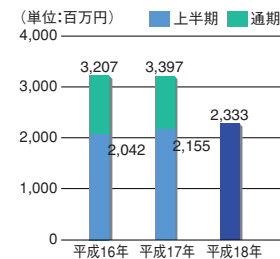
子会社株式評価損等……………195百万円

主な経営指標の推移

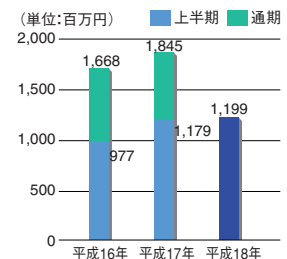
●売上高の推移



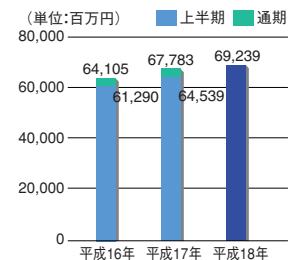
●経常利益の推移



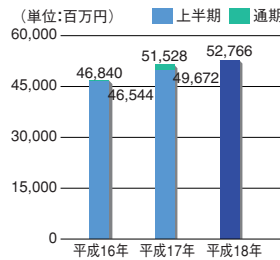
●中間(当期)純利益の推移



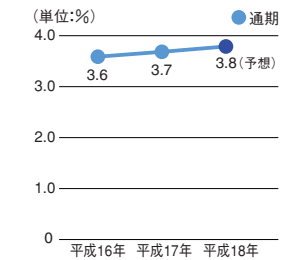
●総資産の推移



●純資産の推移



●ROEの推移



ヨコレイくんが行く! 倉庫の中を探検 VOL. 1

● プラットフォーム編(1)



食品を生産現場から家庭の食卓へ安全にお届けするために、「保管」という面での倉庫は、絶対になくはならない存在。倉庫の外観は見ることも、その中までは、普段の生活ではなかなかお目にかかれない。一体、倉庫の中はどうなっているのか？ ヨコレイの冷蔵倉庫構内を探検に行ってみよう!



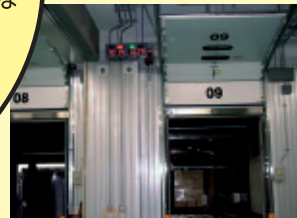
巨大な倉庫がそびえ立つ敷地内へと足を踏み入れる。ここはヨコレイ伊勢原物流センター(神奈川県伊勢原市)。

今回のお目当ては、「プラットフォーム」。到着したトラックが貨物をおろす場所。いわゆる倉庫の玄関である。

イメージでは、電車のプラットフォームのような横長で吹き抜けるの形状をしていて、トラックはどこからでも荷物の搬入出を行えるものだと思っていた。だが、現場に着いてビックリ。なんとそこには、屋内ガレージのように1台ずつシャッターがついているだけで、想像していた搬入出の場などなかったのだ。(一体、どういうことだ?)



数分後、到着した1台のトラックがその謎を解いた。トラックはシャッターの下りた穴倉(?)にバックで進入し、後ろの部分がすっぽりと隠れた。聞けば、穴倉は「ドックシェルター」と呼ばれ、車両の大小にかかわらずトラックとの隙間を生



じにくくし、荷物の搬入出時に倉庫内への外気の流入と屋内の冷気(常時10℃)の流出を防ぐらしい。この伊勢原物流センターではエアカーテンを備え付け外気の流入をより強固に防いでいる。

なるほど、これなら搬入出の際に、生鮮食品を低温に保つ低温物流網・コールドチェーンが途切れることなく食品の広域流通や長期間の保存が可能になる。

食品の安全が求められる時代の要請に応えるため、倉庫の搬入出口だけでも、これだけの配慮がなされている。いやはや、冷蔵倉庫は奥が深い。これから先が楽しみになってきたぞ。



ヨコレイでは、時代の要請、お客様の要望にお応えし、最新の設備を積極的に導入しています。また、環境にやさしい太陽光発電設備や自然冷媒の使用などにも取り組んでいます。



会社概要／株式の状況

(平成18年3月31日現在)

会社概要

会社名 横浜冷凍株式会社
本社所在地 〒220-0022
横浜市西区花咲町六丁目145番地 横浜花咲ビル7階
TEL:045-326-1010(代表) FAX:045-326-1145

設立 昭和23年5月13日
資本金 10,272,936,193円
従業員数 792名

業務内容 1.冷蔵倉庫業ならびに普通倉庫業
2.水産物の加工、販売ならびに輸出入
3.農畜産物の加工、販売ならびに輸出入
4.不動産賃貸業
5.貨物運送取扱事業ならびに貨物自動車運送事業
6.食堂および喫茶店の経営ならびに飲食物の販売
7.その他前各号に付帯関連する一切の事業
(定款における事業目的)

役員および執行役員

代表取締役社長 吉川俊雄 監査役(常勤) 佐々木美穂
専務取締役 吉橋伊知男 監査役(常勤) 東根憲一
常務取締役 小林健次 監査役 久米信介
常務取締役 八田保 監査役 大田正

取締役 水野隆明 執行役員 三井次信
取締役 藤田裕澄 執行役員 井上祐司
取締役 飯島敏正 執行役員 岩渕文雄
取締役 西山敏彦 執行役員 須藤正己
取締役 安富明文

株式の状況

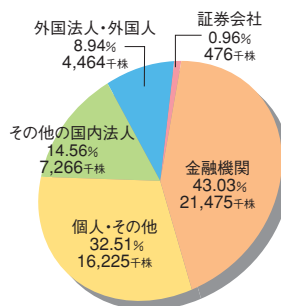
会社が発行する株式の総数 160,000,000株
発行済株式の総数 49,909,333株
株主数 9,708名

●大株主(上位10名)

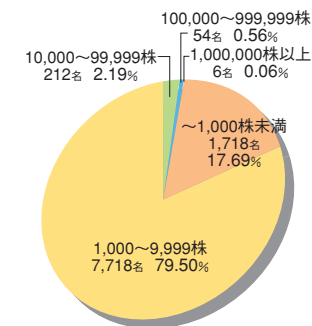
大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	5,113	10.24
第一生命保険相互会社	3,107	6.23
株式会社横浜銀行	2,176	4.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,155	4.32
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,902	3.81
農林中央金庫	1,473	2.95
株式会社八丁幸	1,411	2.83
三菱UFJ信託銀行株式会社	907	1.82
横浜振興株式会社	892	1.79
横浜冷凍従業員持株会	841	1.69

(注) 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社……………5,113千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社……………2,155千株
資産管理サービス信託銀行株式会社……………1,902千株
三菱UFJ信託銀行株式会社……………357千株

●所有者別分布状況



●所有株式数別株主分布状況



株主メモ

決算期	9月30日
定時株主総会開催期	12月
同総会議決権行使株主確定日	9月30日
期末配当金支払株主確定日	9月30日
中間配当金支払株主確定日	3月31日
その他の基準日	上記の他必要がある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定
公告掲載新聞	日本経済新聞
1単元の株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所(第1部)
名義書換株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
同連絡先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-707-696(フリーダイヤル)

●お知らせ

- 1.貸借対照表および損益計算書の開示は当社ホームページに掲載しております。
<http://www.yokorei.co.jp/kessan.html>
- 2.平成15年4月1日施行の商法改正により「株券失効制度」がスタートし、株券を喪失された場合の手続が従来の公示催告・除権判決に基づく再発行手続より簡便となりました。詳細は株主名簿管理人にご照会ください。

株式の相続手続
依頼書を請求したい
ののですが?

住所
変更をしたい
ののですが?

配当金の
振込指定先を変更
したいののですが?

単元未満株式
買取請求に
必要な用紙が
欲しいののですが?

このような時は、
株主名簿管理人のフリーダイヤル
☎0120-707-696で
承っております。
(24時間自動音声応答
0120-864-490)

IRサイトのご紹介

http://www.yokorei.co.jp/index_IR.html

当社は、ホームページを重要な情報発信源の一つと認識しており、投資家の皆様の理解を助ける
と判断した情報は、随時ホームページに掲載しております。ぜひ、ご活用ください。

- 投資家の皆様へ ●株価情報 ●決算短信 ●IRライブラリー ●IRスケジュール ●会社情報 ●決算公告
- 株主優待

なお、会社案内、採用情報等につきましては<http://www.yokorei.co.jp/>(メインHP)に掲載しております。



横浜冷凍株式会社

〒220-0022 横浜市西区花咲町六丁目145番地 横浜花咲ビル7階

<http://www.yokorei.co.jp/>



この報告書は、環境負荷低減のため「古紙100%再生紙」
「VOC(揮発性有機化合物)ゼロの100%植物油インキ」を使用しています。